opusdei.org

属人区長の手紙 「2016年9月〕

ハビエル・エチェバリア師は、十字架について考察し、 苦しみの道を歩む病気の方々 と高齢者に付き添うことは、 神に栄光を帰す慈しみの業で あることを思い出させます。

2016/09/07

愛する皆さん、イエスが私の子ども たちをお守りくださいますように!

9月になりました。母であり師である教会は、贖いの功徳をより深く自

分のものにするよう招きます。14日 の十字架の称替の祝日は、主が世の 救いのために命を捧げられた聖なる 木が、勝利と栄光の玉座であること を思い起こさせます。「わたしは地 上から上げられるとき、すべての人 を自分のもとへ引き寄せよう」[1]。 翌日には、十字架のもとに佇まれる 聖母の記念日で、新たなアダムであ るキリストに一致した新たなエバ・ 聖母が、人類の救いに全面的に協力 したことを強く印象づけます。信仰 を持って十字架を仰ぐと、 |聖金曜 日に、世についての神の審判を表す 刑罰の道具が、命とゆるし、いつく しみの源泉となり、和解と平和のし るしになったこと」^[2]が分かりま す。

これらの典礼上の祝日は、日々の歩みに現れる苦しみの神秘への応え方についても問いかけています。 それはそうとして、時には人間は、自分が満足したり喜んだりすることがで

きたら「成功」と言い、反対された り、望み通りにいかなかったり、身 体的精神的な苦しみを伴ったりする と「失敗」と言います。この誤った 論理を乗り越えるよう努めましょ う。聖ホセマリアが書いたように 「成功とか失敗とかは内的生活にあ るもの」だからです。「成功とはイ エス・キリストの十字架を諸手で、 落ち着いて受け入れることにありま す。というのも、イエスと同じよう に私たちにとっても十字架は玉座で あり、愛を称賛することだからで す。また、一市民として付き合い、 友情、仕事、言葉、教理、祈りと犠 牪によって神に近づかせ、贖いの実 りに与らせる最高のものだからで す」^[3]。

残念なことに、様々な環境の中で十字架からの逃避が見られますが、教皇様の次の言葉で自問してみましょう。「洗礼によって始まったキリスト信者としての道はどうなっている

か、落ち着いているか(…)。私は、 世俗的ではかない好きなことに留 まっていないか、それとも、常に、 キリストの山上の説教や慈善活動を 実行しつつ前進しているか。イエス の道は慰めと栄光に満ちています が、同時に十字架もあります。 も平和な心で過ごしましょう」^[4]。

このいつくしみの聖年の間、特に力を入れている慈善活動の中で、物りであると同時に精神的な慈善があります。病人と高齢者のお世話ではない。物的な面倒を見るだけではない要にも霊的な側面を考慮する必要なは十字架上のキリストに一致する機会であることです。

病人の世話は地上におけるイエスが 絶えず配慮しておられたことでし た。聖マタイが述べているように救 い主であることのしるしの一つでし た。「彼はわたしたちの患いを負 い、わたしたちの病をになった| ^[5]。福音記者たちは種々の機会にこ のことを繰り返しています。時には 自分のため、あるいは親戚など近し い人のためにお願いする人について 記しています。例えば、カファルナ ウムの百人隊長は病気の部下のため に、ある人は中風の友だちを連れて きてお願いし、マルタとマリアは、 重病の兄弟を治してもらおうとベタ ニアにいらっしゃるよう主を急き立 てます。バルティメオはエリコへの 途上での主に、御憐れみによって見 えるようにしてくださいと叫びま す…。別の折には、イエスがイニシ アティブをとられました。例えば、 「舟から上がり、大勢の群衆を見て 深く憐れみ、その中の病人をいやさ れた」^[6]とき、あるいはベトサイダ という池の傍らで半身不随の人に出 会い「良くなりたいか」^[7]と言われ たとき、またイエスがナイムの未亡

人の息子を生き返らせた状況において見られることです^[8]。

度々、数多くの人が病気の家族とか 友人とかをイエスの傍らに連れて行 きました。聖マタイが語っていま す。イエスは「ガリレア湖のほとり に行かれた。そして山に登って座っ ておられた。大勢の群衆が、足の不 自由な人、目の見えない人、体の不 自由な人、口の利けない人、その他 多くの病人を連れて来て、イエスの 足もとに横たえたので、イエスはこ れらの人々をいやされた。群衆は、 口の利けない人が話すようになり、 体の不自由な人が治り、足の不自由 な人が歩き、目の見えない人が見え るようになったのを見て驚き、イス ラエルの神を賛美した」「9」

当然、主の奇跡は、生まれつき目の 見えない人の治癒に見られるよう に、単に身体的な病気を癒すだけで はなく、救霊の恩恵をもたらすもの でした。当時の考え方で、その人の 盲目は罪の結果だと考えていた弟子 たちの質問に対してイエスはお答え になりました。「両親が罪を犯した からでもない。神の業がこの人に現 れるためである」^[10]。

使徒言行録は、初代教会のいろいろな時期の活動を描写し伝えています。「使徒たちの手によって、多くのしるしと不思議な業とが民衆の間で行われた。(…)人々は病人を大通りに運か上し、担架や床に寝かせた。ペトロが通りかかるとき、せめてその影だけでも病人のだれかにかかるようにした」[11]。

苦しみや病気を超自然的に受け止めるなら、神に近づくことができます。しかし、反抗的になると神から離れてしまいます。創立者は、一個人的にもオプス・デイの歴史においても一主の十字架に一致した身体的

全ての病人を、注意深く見守り助けなければなりません。愛情を込めて、物的霊的に気遣うことです。取立つのであれば、健康そうのであれば、ます。そのであいします。その他のあらゆる苦しれば、その他のあらゆる苦ければ、その他のあらけるようで受諾でします。そしていつも、します。そしまりであた。

協力しているという超自然の喜びを 常に持つように。

「忠実と共に十字架を。喜びと共に 十字架を。喜びのない捧げもので主 をお喜ばせすることはできません。 hilarem enim datorem diligit Deus (2コリント9,7)、喜んで与える人を 神は愛してくださいます。十字架に おいて、落ち着いて休息を。私たち は生きることに対しても、死ぬこと に対しても恐れを抱きません。神を 恐れることもありません。私たちの 父ですから」^[13]。同時に、人間につ いての洞察力の深かった創立者は繰 り返していました。「体の痛みは、 取れるならば取り去ります。という のは、生活そのものに十分苦しみが あるからです。それを拭い去ること ができなかったら、それを捧げま す」[14]。

非常にキリスト教的なこの態度を理解するためには、「善き牧者」の眼

差しでこれらの状況を見る必要があ ります。「愛から生まれる自然な感 情だけが、キリストの民(…)の信心 の中にある神のみ心にかなう生活に 気づかせてくれます。今、私が思い 出しているのは、彼らの強い信仰で す。信条(クレド)の信仰箇条を知ら なくとも、病気の子どものベッドの 足もとで熱心にロザリオを唱える母 親たちのことです。マリアの助けを 求めて、質素な家に点されたろうそ くに心からの希望を寄せる人々、十 字架のキリスト像に親しみを込めた 眼差しを向ける人々のことです | [15]

病気になったり、他のことで苦しん だりする時には、一緒にいる誰かに 話し、できるだけ早く相応しい手段 を講じるため、医師に診でもらいい その指示を受けることが望ましいの です。こうして不必要な不られるい が避けられるで 越し苦労に陥ることが避けられて さましてすることが避けるの世では です。聖ホセマリアが、この世では 誰も聖人ではないのと同じように、 いつも健康である人はいない、と言うのを何度聞いたことでしょう。 皆、病気、しかも大病を患うことが あり得るのです。そんな時には、主 に、そして支えになり得る人に、信 頼して全てを委ねなければなりませ ん。

子どもたちよ、聖なる創立者の勧め を感謝のうちに受け入れることにし ましょう。「神の業を行うとは、美 辞麗句を連ねることではなく、愛に てまします御方のために自己を使い 果たせという招きなのです。己れに 死に、新たな生命に生まれねばなり ません。十字架の死に至るまでイエ スは従順であったのです。『十字架 で死ぬまで、自分を卑しくして従わ れた。そこで神はかれを称揚した』 (フィリッピ 2.8-9)。従順であったか ら神はイエスを高められたのです。 神のみ旨に従うならば、十字架は復 活であり、称揚でもあります。キリ ストのご生涯は、少しずつ、私たち

において実現することでしょう。そうすれば、たとえ弱さや過ちがどれほど多かったとしても、神のよい子であろうと努力し、善をなしつつ過ごしたと言うことができるでしょう」 [16]。

また、愛する福者アルバロが、健康 や病気を喜んで愛しておられたこと を考えないわけにはいきません。福 者が、聖ホセマリアの後継者として 選出された記念日の15日には、思い を新たにして、私たち皆を支えてく ださるようお願いするのです。

皆が、イタリアの地震、またあらゆるところの様々な大きな災害の犠牲者のために祈ったことは知っています。この全人類への兄弟愛を深めましょう。

3日後、この聖母巡礼地トレシウダで、属人区のアソシエートである6人の助祭に司祭叙階の秘跡を授けます。彼らと世界中の司祭のために、

教皇と全ての司教のために祈ってください。聖霊が私たち皆をその賜で満たし聖人にしてくださいますように。同日、オプス・デイを高く評価した福者マザー・テレサの列聖式が行われます。この教会の喜びに私たちも一致しましょう。

心からの愛を込めて祝福を送ります。

皆さんのパドレ

ハビエル

トレシウダ、2016年9月1日

[1] ヨハネ 12,32。

[2] ベネディクト16世、2008年9月 14日説教。

- [3] 聖ホセマリア、1954年5月31日 手紙30番。
- [4] 教皇フランシスコ、2016年5月3日サンタ・マルタでの説教。
- [5]マタイ 8,17; イザヤ53,4参照。
- [6]マタイ14,14。
- [7] ヨハネ 5,6。
- [8]ルカ7,11-15参照。
- [9]マタイ15,29-31。
- [10] ヨハネ 9,3。
- [11] 使徒言行録 5,12-15。
- [12] 聖ホセマリア、日付無し、家 族の集まりでのメモ(AGP. P01, XII-1981, p.9)。
- [13] 聖ホセマリア、1954年5月31 日手紙30番。

[14] 聖ホセマリア、1969年1月1日 家族の集まりのメモ。

[15] 教皇フランシスコ、2013年11 月24日使徒的勧告「福音の喜び」 125番。

[16] 聖ホセマリア、「神の朋友」 21番。

pdf | から自動的に生成されるドキュメント <u>https://opusdei.org/ja-jp/article/zokujinkuchono-tegami-2016-9/(2025/12/17)</u>